【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成26年7月17日(2014.7.17)

【公表番号】特表2013-531724(P2013-531724A)
【公表日】平成25年8月8日(2013.8.8)
【年通号数】公開・登録公報2013-042
【出願番号】特願2013-519026(P2013-519026)
【国際特許分類】
Ｃ０９Ｄ　17/00　　(2006.01)
Ｃ０９Ｃ　 1/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０９Ｄ　17/00
Ｃ０９Ｃ　 1/00

【手続補正書】
【提出日】平成26年5月28日(2014.5.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
熱可塑性プラスチック成形材料を着色するための水性着色剤調製品であって、
ａ）２６０℃で６０分の等温熱重量分析で最大１５質量％、好ましくは０．１～１０質量％、特に好ましくは０．５～７質量％、極めて特に好ましくは０．５～５質量％及び殊に好ましくは１～４質量％の乾燥された形での純分散添加剤の減量を有する、分散添加剤　１質量％～４９質量％、
ｂ）顔料又は顔料混合物　０．５質量％～５０質量％及び
ｃ）助剤　０質量％～５０質量％、及び
ｄ）水、好ましくは脱塩水　０質量％～９８．５質量％
を含有し、その際に成分ａ）～ｄ）の質量部は合計して１００質量％になり、
その際にｂ）に記載の前記顔料又は前記顔料混合物の少なくとも１種の顔料が、ジアゾ染料、ペリレン類、アントラキノン類、アントラピリミジン類、ペリノン類、Thermoplastrot(R) 454、Macrolexgelb(R) G、クロム酸亜鉛、硫化カドミウム、酸化クロム、群青顔料及び金属フレーク及び$BaSO_4$からなる群から選択されている
ことを特徴とする、水性着色剤調製品。
【請求項２】
ｂ）に記載の前記顔料又は前記顔料混合物の少なくとも１種の顔料が、Sandoplast(R)レッドG／Solvaperm(R)レッドGである、請求項１記載の水性着色剤調製品。
【請求項３】
前記分散添加剤の割合が、それぞれ前記着色剤調製品の全量を基準として、５質量％～４５質量％、好ましくは１０質量％～４０質量％及び特に好ましくは２０質量％～３５質量％である、請求項１又は２記載の水性着色剤調製品。
【請求項４】
分散添加剤として、少なくとも無水マレイン酸と、スチレンと、アミノポリエーテルとをモノマー単位として含む高分子量コポリマーが使用される、請求項１から３までのいずれか１項記載の水性着色剤調製品。
【請求項５】

分散添加剤として、メタクリル酸と疎水性メタクリラートとのコポリマーが使用される、請求項１から３までのいずれか１項記載の水性着色剤調製品。
【請求項６】
分散添加剤として、ポリエーテル、好ましくはエチレンオキシド、プロピレンオキシド及び／又はブチレンオキシド、及びスチレンオキシドのコポリマーが使用される、請求項１から３までのいずれか１項記載の水性着色剤調製品。
【請求項７】
助剤として、増粘剤、特にカルボキシラート基含有ポリマー又はセルロース、特にエチルセルロースが含まれている、請求項１から６までのいずれか１項記載の水性着色剤調製品。
【請求項８】
熱可塑性プラスチック成形材料を着色するための、水性着色剤調製品の使用であって、前記水性着色剤調製品が、
ａ）２６０℃で６０分の等温熱重量分析で最大１５質量％、好ましくは０．１～１０質量％、特に好ましくは０．５～７質量％、極めて特に好ましくは０．５～５質量％及び殊に好ましくは１～４質量％の乾燥された形での純分散添加剤の減量を有する、分散添加剤１質量％～４９質量％、
ｂ）顔料又は顔料混合物　０．５質量％～５０質量％及び
ｃ）助剤　０質量％～５０質量％、及び
ｄ）水、好ましくは脱塩水　０質量％～９８．５質量％
を含有し、その際に成分ａ）～ｄ）の質量部は合計して１００質量％になる、水性着色剤調製品の使用。
【請求項９】
水性着色剤調製品で着色されており、前記水性着色剤調製品が、
ａ）２６０℃で６０分の等温熱重量分析で最大１５質量％、好ましくは０．１～１０質量％、特に好ましくは０．５～７質量％、極めて特に好ましくは０．５～５質量％及び殊に好ましくは１～４質量％の乾燥された形での純分散添加剤の減量を有する、分散添加剤１質量％～４９質量％、
ｂ）顔料又は顔料混合物　０．５質量％～５０質量％及び
ｃ）助剤　０質量％～５０質量％、及び
ｄ）水、好ましくは脱塩水　０質量％～９８．５質量％
を含有し、その際に成分ａ）～ｄ）の質量部は合計して１００質量％になる
ことを特徴とする、熱可塑性プラスチック。
【請求項１０】
水性着色剤調製品で着色されており、前記水性着色剤調製品が、
ａ）２６０℃で６０分の等温熱重量分析で最大１５質量％、好ましくは０．１～１０質量％、特に好ましくは０．５～７質量％、極めて特に好ましくは０．５～５質量％及び殊に好ましくは１～４質量％の乾燥された形での純分散添加剤の減量を有する、分散添加剤１質量％～４９質量％、
ｂ）顔料又は顔料混合物　０．５質量％～５０質量％及び
ｃ）助剤　０質量％～５０質量％、及び
ｄ）水、好ましくは脱塩水　０質量％～９８．５質量％
を含有し、その際に成分ａ）～ｄ）の質量部は合計して１００質量％になる
ことを特徴とする、ポリ（アルキル）（メタ）アクリラート。
【請求項１１】
熱可塑性プラスチックを着色する方法であって、
水性着色剤調製品を使用し、前記水性着色剤調製品が、
ａ）２６０℃で６０分の等温熱重量分析で最大１５質量％、好ましくは０．１～１０質量％、特に好ましくは０．５～７質量％、極めて特に好ましくは０．５～５質量％及び殊に好ましくは１～４質量％の乾燥された形での純分散添加剤の減量を有する、分散添加剤

１質量％～４９質量％、
ｂ）顔料又は顔料混合物　０．５質量％～５０質量％及び
ｃ）助剤　０質量％～５０質量％、及び
ｄ）水、好ましくは脱塩水　０質量％～９８．５質量％
を含有し、その際に成分ａ）～ｄ）の質量部は合計して１００質量％になる
ことを特徴とする、熱可塑性プラスチックを着色する方法。
【請求項１２】
熱可塑性プラスチックとしてポリ（アルキル）（メタ）アクリラートを使用する、請求項１１記載の方法。
【請求項１３】
熱可塑性プラスチックとして耐衝撃変性ポリ（アルキル）（メタ）アクリラートを使用する、請求項１１又は１２記載の方法。
【請求項１４】
請求項１１から１３までのいずれか１項記載の方法により得られる、熱可塑性プラスチック成形材料。
【請求項１５】
請求項１４に記載された熱可塑性プラスチック成形材料の射出成形又は押出しにより製造された、プラスチック成形体。